



近代以前のかつての街道は次のとおり。とくに広義としての伊勢街道の名称は各街道でも用いられるので注意を要する。
 (伊勢街道(〇〇街道)と用いられることが多い) 狭義としては下記のように用いられる。

本街道	伊勢街道	日永の追分から東海道と別れ、伊勢にいたる街道。 国道 23 号として 1952 年(昭和 27 年)に整備され、松阪市以南は現在、三重県道 428 号。
	伊勢本街道	大坂・玉造稻荷神社から各所を經由し、奥津(津の西側奈良県との境のこと)経由で最終的に伊勢にいたる街道。奈良(猿沢池)から出発し、三輪、初瀬(ここまでは初瀬街道とも)、榛原、山粕、菅野、奥津、多気、津留、相可、田丸などを経て、宮川を渡って山田(伊勢)に到る約 129 キロの行程。
	参宮街道	桜井で初瀬街道と分かれ、大宇陀経由で伊勢にいたる街道。
支道	伊勢別街道	関宿東の追分で東海道と分岐、椋本宿(津市)を經由し、江戸橋で伊勢街道に合流する。窪田宿には高田本山専修寺の寺内町である一身田がある。
	初瀬街道	桜井で参宮街道、榛原で伊勢本街道と分かれ、あお越え(青山高原)を經由し、六軒で伊勢街道に合流する。1953 年(昭和 28 年)に大部分が国道 165 号として整備された。
	和歌山街道	和歌山から吉野を經由、参宮街道と合流・分岐し、松阪に至る街道。
	竹内街道	飛鳥時代からの古道。江戸時代以降は伊勢本街道の一部として機能した。1974 年(昭和 49 年)に羽曳野市以東が国道 166 号へ指定(区間:堺市-羽曳野市-葛城市)
	横大路	飛鳥時代からの古道。元は竹内街道・長尾街道交点付近と藤原京を結ぶ古道であったが、江戸時代以降は伊勢本街道の一部として機能した。
	暗越奈良街道	奈良時代からの古道。江戸時代以降は、伊勢本街道の一部として機能した。1970 年(昭和 45 年)に大部分が国道 308 号に指定。(区間:大阪市-生駒市-奈良市)
	上街道	飛鳥時代からの古道で、古くは上ツ道とも呼ばれた。奈良から天理市を経て桜井市で初瀬街道と合流する。
	清滝街道:	行基道とも呼ばれ、守口宿から清滝峠を越えて東へ進む街道。木津町で奈良街道と合流・木津川を越えて山城町に至り、伊賀街道に接続する。
	伊賀街道	奈良から上野盆地の赤坂で大和街道と分岐、伊賀国大山田から長野峠を越え前田宿(片田宿)を經由、津の塔世橋南詰で伊勢街道に合流。全長約 12 里(50km)の街道で、もともと畿内と伊勢神宮を結ぶ参詣路だった。1608 年(慶長 13 年)藤堂高虎が伊勢・伊賀両国 22 万石の大名として移封されたときに、本城に津を、伊賀上野に支城を置いてから津藩の重要官道として整備が進んだ。1993 年(平成 5 年)までに大部分が国道 163 号となった。
	奈良街道	五百野(津市美里町)で伊賀街道と分岐、久居城下を経て雲出川を渡り、月本追分(松阪市中林町)で伊勢街道と合流。こちらにも伊賀越奈良道の別名がある。
伊勢路	伊勢神宮から、熊野三山(熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社)へ通じる参詣道。	

